

2025 年 8 月 20 日
株式会社ワコールホールディングス

2026 年 3 月期 第 1 四半期 決算説明会 質疑応答要旨 (QA 形式)

【日時】8 月 13 日 (水) 11 : 00 ~ 12 : 00

【登壇者】

株式会社ワコールホールディングス 代表取締役 社長執行役員	矢島 昌明
株式会社ワコールホールディングス 代表取締役 副社長執行役員	宮城 晃
株式会社ワコール 代表取締役 社長執行役員	川西 啓介

Q1: 連結業績について、計画に対して進捗はどうであったのか、連結および国別に教えてほしい。

A1: 連結全体では売上は未達、利益は計画並みに着地した。国内は主に「CW-X」、パーソナルウェア（パジャマ商材）、「AMPHI」について、売上が計画未達となり、利益も下回った。米国は閉店影響などで売上は未達だが人員配置の適正化による人件費削減により利益は計画通り。欧州は販売が好調に推移し、売上・利益とも計画を上回った。中国は店舗改装等の効果で大幅に伸長した店舗も一部あったが、全体では売上、利益ともに未達。

Q2: 売上が厳しい中、売上総利益率改善やコスト削減でカバーしているが、このような収益状況は今期中続くのか？

A2: 不採算事業の見直しやコスト構造改革は継続して実施する。大きな改革は前期までに一段落したが、今後も品番集約や自動発注システムの稼働などの取り組みによって充足率を高め、売上と粗利を改善し、より健全な事業成長を目指す。

Q3: コストコントロールの額はどれぐらいか？経費削減する余地は今後もあるのか？

A3: 計画に対して約 20 億円の削減。今後の経費削減は一概に余地があるとは言えない。フレックス定年制度の廃止による人件費の戻し入れはすべて 1Q で計上しており一過性のもの。また、販促費の一部後ろ倒しもある。

Q4: フレックス定年制度について制度内容と廃止理由を教えてほしい。

A4: フレックス定年制度は株式会社ワコールの制度で、定年を迎える前に退職する従業員に対し第 2 のキャリアステップを応援する意図で退職金を割増しで払うもの。直近 2 年間で人員適正化はひと段落したため、制度廃止に踏み切った。

Q5: 株式会社ワコールの売上について、どの点が想定と違い苦戦しているのか教えてほしい。

A5:大きく3点ある。1点目は閉店影響。量販店や百貨店、直営店の閉店影響が大きいですが、今期中には一巡する見込み。2点目は「CW-X」。プロモーションを強化しているが、低単価商品に購買が集中してしまい、高単価のメイン商材への波及が想定を下回った。3点目は直営店を中心に展開する「AMPHI」やパーソナルウェア（パジャマ商材）の販売低迷。

Q6: ピーチジョンの収益状況を国内・海外別に教えてほしい。

A6: 国内は前期から実施している新規顧客獲得施策が奏功し、増収、黒字転換。海外については台湾と香港の2拠点のみ。台湾は堅調だが、香港は休日に中国本土での購買が増えるなどの経済影響もあり想定を下回っている。一方、国内の免税売上の多くを台湾・香港の顧客が占めており、広告宣伝機能を担っていると捉えている。

Q7: 欧州ブラビッシモ社の物流倉庫火災の影響はどの程度か？

A7: 自社 EC における出荷は6月21日以降停止中だが、9月1日より再開予定。再開後すぐに100%売上が戻るとは思っておらず、売上は当面50%程度の回復見込み。直営店は計画に対して60～70%の水準。損失は保険でカバー予定だが逸失利益の算定には時間を要するため影響は現在精査中。

以上